

# 伊藤 正信 議員

無所属クラブ

## 本市を守る堤防の危険箇所はどこか

問

(1) 国により現在市内の木曾川堤防補強工事が行われているが、本市の堤防の危険箇所及び対策を尋ねる。

(2) 防災訓練は、地域の生活環境にあった訓練を行うことが必要と考える。河川と密接な生活環境にある本市では、災害時に船の利用を想定した訓練などを取り入れてみてはどうか。

(3) 保育所など幼児が通う施設では救命胴衣が順次支給されているが、一般市民にも支給を拡大できないか。

### 木曾川堤防の高潮対策区間を重要水防箇所と位置づける

答 開発部長

(1) 本市の地域防災計画の重要水防箇所として、国が管理する木曾川の堤防を示している。木曾川の高潮対策区間で、未対策の鍋田上水門を含む上下流部の国道1号線の尾張大橋付近、近鉄線の河川橋部が対象となる。

今年度も高潮堤防補強工事として、鍋田の上水門改築工事と前ヶ須高潮堤防補強工事が実施されている。4月に、県、名古屋市を

はじめ沿岸市町村などと名古屋港管理組合が構成団体として、愛知県河川海岸堤防等地震・津波対策事業促進協議会が設立された。

今後は、この協議会を通じて、国へ強く支援・協力を要望していきたい。

答 総務部長

(2) 現在実施しているコミュニティ単位の防災訓練では、避難誘導訓練や避難者名簿作成などの安否確認訓練などが行われている。船の利用訓練などについては、今後の検討課題としたい。

(3) 救命胴衣は、保育所など幼児が通う施設には、24年度から順次整備を行っている。

また、地区の自主防災会でも救援活動用の救命胴衣を整備していただいている。

一般市民には、自分の命は自分で守るということから、個人での購入をお願いしたい。

## 藍亭を市の文化財に再指定を

問

漢詩の普及に尽力し、本市の名誉市民でもある服部擔風氏の書斎である藍亭は、現在、平島に移設され、有志の藍亭保存会により維持管理されているが、老朽化及び保存会会員の減少により維持管理が困難になってきている。

弥富の誇る財産として、市の文化財に指定をし、守っていくべきでは。

## 再指定を視野に調整していきたい

答 市長

藍亭は、唯一の名誉市民である服部擔風の書斎、書院として、明治35年に建てられたものである。昭和48年に弥生小学校に移築され、昭和51年に弥富町の文化財に指定された。その後、昭和57年に学校の整備に伴い文化財の指定を解除さ

れ、藍亭保存会により市内の個人宅に移築された。今までの個人宅の方及び保存会の皆様の御努力に対して大変敬意を表するところである。

市としては、服部擔風氏や藍亭の文化的価値を十分に認識している。

3年後の29年に、生誕150年ということになり、この年に合わせて藍亭をしかるべき場所に移築し、公開できるように、また文化財の再指定を視野に入れながら、藍亭保存会、文化協会の方々と調整を進めていきたい。



▶ 藍亭